



## 育児は、人生で幸せな体験。 男性が育児休業を取ることをもっと当たり前にしたい。

学生時代から、将来は自分の子供とたくさんの時間を過ごしたいと決意していた橘さん。育児によって、どのように人生が変わるのでしょうか。

橘 信吾さん SHINGO TACHIBANA

通信会社勤務

大学卒業後、通信会社に入社。プロモーション業務に従事。結婚後、子供が生まれると1年間の育児休業(育休)を取得。育休中は地域の子育て支援活動に積極的に参加。現在は仕事と育児を両立しながら、男性の育児休業取得を広げる活動を行っている。

### 「育休を取ったことで、自分の世界がどんどん広がっていった。」

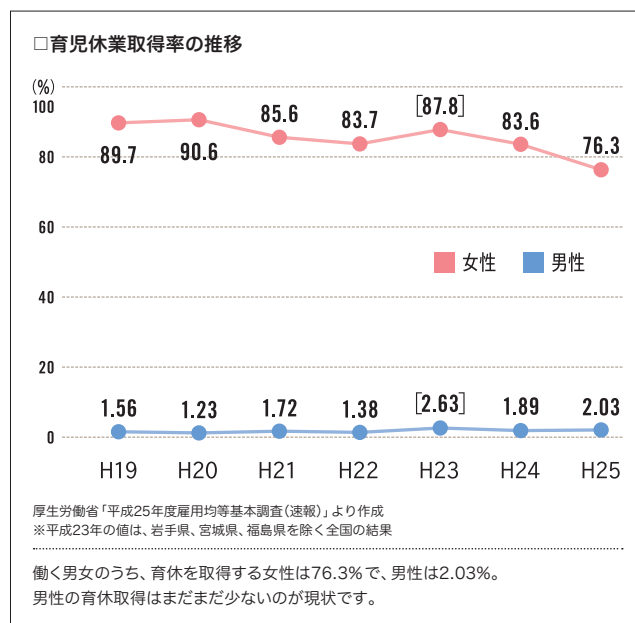
—— 育児休業(育休)を取得する男性はまだまだ少数ですが、どうして育児休業を取ることを選んだのですか。

小さいころ、父親は仕事中心の生活をしていました。その影響もあって、自分には父親と遊んだ記憶がありません。「親子としてこういう関係は寂しいな」という思いを抱いていたことから、将来は子供と過ごす時間をたくさん取る父親になりたいと考えていました。転機となったのは、大学時

代。就職活動をしていたときに、新聞で育児休業を取っている男性の記事を読み、そんな制度があるならぜひ活用したいと思いました。制度が充実している企業を探して入社。しかし、制度があっても、実際に育休を取る男性はほとんどいませんでした。その後、結婚し、第1子が生まれたときに思い切って育休を取る決断ができたのは、学生のころから決意を固め、就職後も育休中に収入が減ってしまうことに備えて計画的に貯金をするなど、精神的にも経済的にも準備ができていたからです。

—— 実際に育休を取ってみていかがでしたか？ また育児に関する地域活動についても聞かせてください。

子供が目覚ましてから、ご飯を食べさせて、一緒に遊んだり、一緒に昼寝をしたりしていると、あっという間に夜になっていた……育休中は、なんだか仕事をしているときに忙しかった気がします。ですが、子供とじっくり過ごした時間には、約30年の人生でも感じたことのない幸福感がありました。自分がしたことに対して、それ以上の笑顔を返してくれる。逆に嫌なことがあれば、思い切り嫌な顔をする。素直な感情と向き合うことで、自分も以前より感情が豊かになりました。子供と一緒に出かけると、「パパ友」もたくさんできました。地域のパパ会では自分でもイベントを企画するなど、自分の世界もどんどん広がりました。育休で会社を1年間休んだ分、仕事のおくれを取り戻すのは大変ですが、自分にとっては育児で得られることのほうがはるかに大きかったです。子供がで



きた男性の知り合いに「育休はどうするの？」と聞いても、「奥さんがいるから自分は休まなくても大丈夫」という答えが返ってくるのがほとんど。そもそも男性が育休を取れることを知らなかったり、制度を知っていても周りに取った人がいないから、自分が取るという発想にならなかったりする人も多いですね。育児の本当の楽しさを知らないことも、男性が育休取得に踏み出せない原因の一つ。「土日の子供と過ごして楽しかった」とい

う経験は多くの人が持っていますが、本気で育児に取り組むと「こんなに楽しい仕事はない」と思えるくらい楽しいんです。地域活動などを通じて、父親の子育て参画のハードルを取り払っていきたくと思っています。そのために、今は育休について考えるイベントも開催しています。この国が発展していくためには、男性が仕事も育児も頑張られて、子供をもっと育てやすい世の中にしていかなくてははいけませんから。

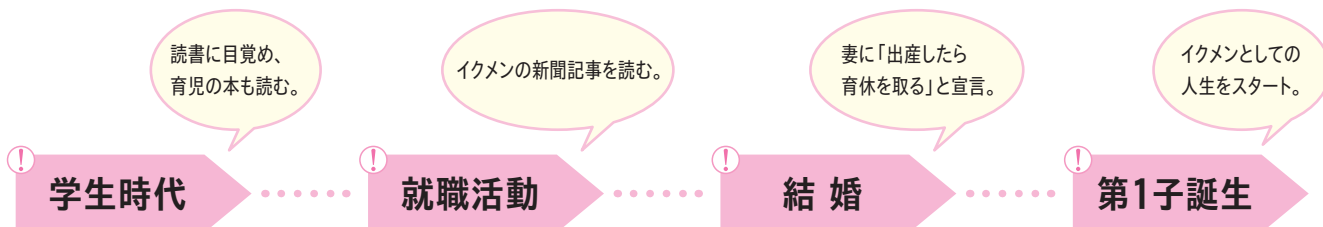
## 『妻の彩織さんに聞きました』



信吾さんが育児休業を取ると聞いたときの率直な気持ちを聞かせてください。また実際に信吾さんが育児をしていることに対して、現在はどのように考えていますか。

子供ができる前から育児本を読んでいたの、「この人は本気なんだな」と思っていました。夫が育児に積極的だと、自分が育児の苦勞を1人で抱え込まなくて済むので、精神的にすごく楽ですね。平日は早く帰ってきて、土日はだいたい子供と2人で出かけてくれるので、その間に自分の時間が取れたり、家事も片づけられたりします。夫はもともと1人の時間が好きだったのですが、育児をきっかけにイベントに出かけたり、友達もたくさんできたりして、すごく楽しそう。そばで見ていると、「この人はこういうことがやりたかったんだな」と、改めて感じます。

### 橘さんの人生のターニングポイント!



## 21世紀型デキる男の定義!?

P8で取り上げた幼稚園教員の久留島さんは、プライベートでは4人の男の子の父親。さらに、育児を積極的に担う男性「イクメン」を増やす地域活動に取り組むなど、社会で広く活躍しています。

子育てをきっかけにPTAや自治会などの地域活動に参加する男性には、家庭と職場以外に第3の居場所ができるという利点もあります。職場とは違って上下関係のない仲間ができるため、自分の世界が広がり、精神的にも安定。仕事上でもアイデアが生まれやすくな

るなどの良い効果があります。

また、家事を男女で協力することは女性の家事負担を減らし、円満な夫婦関係の維持にもつながります。

仕事でバリバリ働く男性だけでなく、家事・子育てや地域活動に積極的な男性もカッコイイ。しかし、育児休業を取得する男性の割合は数%にとどまるなど、橘さんのような男性は、まだ少ないのが現状です。

このような社会を変革し、より良い社会をつかっていくのは、これから社会に出る高校生のみなさんです。21

世紀を生きる「デキる男」の定義について、考えてみてください。





## 育児中だからこそできることが、人生を豊かにしてくれます。

3人の子供を育てながら、地元のお母さんたちを支援する活動を行う中橋さん。その言葉には、育児をもっと楽しいものにして、女性の人生を豊かにするヒントが散りばめられています。

### 中橋恵美子さん EMIKO NAKAHASHI

NPO 法人わははネット理事長

結婚を機に退職。母として2人の女兒を育てながら、育児支援のサークル「わははネット」を立ち上げる。育児情報誌の創刊直前には男児も出産。その後「わははネット」はNPO法人格を取得。理事長として「香川から育児をもっと楽しく」を合言葉に様々な活動を続けている。

## 「育児には、周りの協力が欠かせないと実感しました。」

—— **どんなことがきっかけとなって、育児サークルを立ち上げることになったのですか。**

**大**学卒業後、事務職として働きましたが、結婚と同時に退社。茨城県に引っ越し、専業主婦となって2人の娘を授かりましたが、妊娠したときは産婦人科のことを聞く相手もいませんでした。当時はまだインターネットも普及していない時

代。夫しか頼る人がいない土地で、育児の大変さを実感しました。出産して3年後には、地元の香川県に戻りましたが、親が教えてくれたのは昔の育児の情報ばかり。比較的早く出産したため、同級生も独身ばかりで、結局地元にも相談相手はいませんでした。育児を一緒に頑張る仲間をつくりたい。そう思って、新聞の無料投稿欄で育児サークルのメンバーを募集したことが始まりでした。

## まだまだある！ 子育て経験を生かした女性の活躍例

国では、仕事で活躍している女性も、家事に専念している女性も、すべての女性が輝ける社会をつくるために様々な取組を行っています。じっくり子育てをした女性が、スムーズに社会復帰するための支援もその一つ。子育て経験を生かし、起業を目指す女性への支援を行っています。

中橋さんの例からもわかるように、子育てでは、その後のキャリアにとっても貴重な経験です。有限会社モーハウスは、子育て中の女性がその経験を生かし運営の中心を担っています。

### 子育てでの経験を生かした起業の事例 ～有限会社モーハウス～



写真 左/中央) 会社は子連れでの出勤も可能。職場の一角に子供を寝かしつけるスペースを確保。

写真 右) 女性社員自身の経験に基づき、赤ちゃんを待たせず、すぐに授乳ができる授乳服を開発。乳首も見えず、外出先でもストレスなく授乳ができる。

政府の取組について、詳しくは官邸HP『女性が輝く日本へ』を参照 >>> <http://www.kantei.go.jp/jp/headline/women2013.html/>



—— 育児サークルでは、どんな活動から始めたのですか。またその後、NPO 法人としてどのように活動を広げていったのですか。

自分の友達づくり、居場所づくり、子供の友達づくりくらい  
白の感覚で始めた育児サークル。最初の1年は、どこに  
でもあるサークルに過ぎませんでした。その中で集まったメン  
パーと話をしていると、みんな驚くほど同じことで悩んでいる  
ことがわかったんです。例えば、自分の行った産婦人科のことはよく知っているけれど、ほかの産婦人科のことはわからない。  
じゃあ、みんなの情報を持ち寄って地元のお母さんたちに教え

てあげたら、役に立つはず。そう考えて、まずは育児に役立つ情報を集めた会報誌をつくりました。主婦になる前は仕事をして  
いたメンバーたち。それぞれの経験から様々なアイデアが出て  
きましたし、その中の1人が表紙のイラストを描くなど、生かせる  
技術はどんどん採用していったんです。その後、育児イベント  
の開催、親子が集まれるスペースづくり、行政と連携して育児  
を取り巻く環境改善などを行うようになりました。ボランテ  
ィアから始まったサークルも、今ではNPO 法人として17名の  
子育て中の女性を雇用し、香川県を中心に育児をもっと楽しく  
する活動を幅広く行っています。

## 「育児をもっと楽しく、もっと意義のあるものにしたい。」

—— 「わははネット」の代表として精力的に活動しながら育児を両立させるのは、大変なことではありませんか。

育児が一段落してからでは、この活動は始められなかった  
育と思います。自分自身が育児の当事者として困っている  
ことを解決するためにやるからこそ、ほかの主婦にとっても役  
立つ活動になるので、逆に「今しかできない」と考えていましたね。  
またサークルに集まるほかの子供を見ていると、その子たちも  
かわいく思えてくるんです。「自分の子供も一緒に育てているな」  
という実感があると、自分の子供だけを見ているときより気持ち  
が軽くなって、育児も楽しくなりました。家にこもらず外に  
出ていくことで、育児と地域活動がお互いにいい影響を与え合  
うのだと思います。



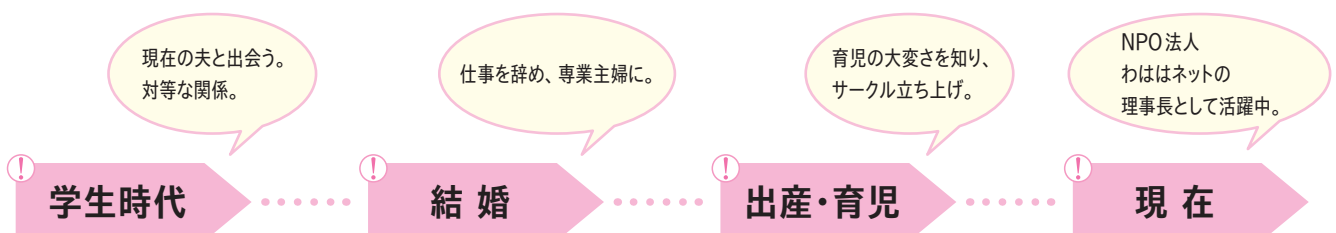
▲ボランティア活動の幅を広げ、NPO 法人になった「わははネット」

—— 主婦として地域活動にも参加することは、女性の人生にとってどんな意味があると考えていますか。

赤ちゃんは会話をすることができません。お母さん友達との  
話は、たいてい育児のことばかり。専業主婦をしていると、「1人の社会人として大人の会話をしたい」という気持ち  
になってきます。私の場合、そんな欲求を満たしてくれるのが、  
「わははネット」でした。会報誌の取材に名刺を持って出かけて  
いくだけで、新鮮で楽しい気持ちになったことを覚えています。  
また育児を1人で抱え込もうとすると、精神的にもつらくなっ  
てしまうもの。育児期間は女性にとって、人間として成長でき

る大きなチャンスだと考えれば、この時期にしかできないこと  
に積極的に取り組むことができます。実際、「わははネット」の  
イベントでもお母さん向けの「手づくりコーナー」は大人気。好  
きなこと、興味のあることを通じて技術を身につければ、社会  
復帰をするときにも必ず役に立ちます。いろいろな人が集まる  
育児サークルに参加すれば、コミュニケーション能力も高めら  
れます。育児期間は人生の足踏みではなく、立派なキャリアの  
一つ。当事者が胸を張って、そう言えるようになり、社会的にも  
それが認められるようになってほしい。そのとき、育児はもっ  
と楽しく、もっと意義のあるものになっていくはずですよ。

### 中橋さんの人生のターニングポイント!



## 参考 もっと調べたい人、考えたい人のために

※記載しているホームページはあくまでも一例です。このほかにも参考となるホームページが多数あるので、探してみてください。



### 統計データを調べたい

- ☞ **内閣府男女共同参画局** <http://www.gender.go.jp/>  
男女共同参画白書や世論調査など、男女共同参画に関する基本的なデータが掲載されています。
- ☞ **(独) 国立女性教育会館「女性情報ポータルサイト ウィネット」** <http://winet.nwec.jp/>  
キーワード検索が可能な統計データベースです。



### 企業の取組を調べたい

- ☞ **内閣府「女性の活躍「見える化」サイト」** <http://www.gender.go.jp/policy/mieruka/company/mierukasite.html>  
一部の上場企業について、役員・管理職への女性の登用、仕事と生活の両立推進等に関する情報を、業種別に整理して公表しています。
- ☞ **経済産業省「ダイバーシティ経営企業100選」** <http://www.diversity100sen.go.jp/>  
ダイバーシティ推進に取り組む企業を紹介しています。
- ☞ **厚生労働省「ポジティブ・アクション情報ポータルサイト」** <http://www.positiveaction.jp/>  
全国の様々な企業が実際に取り組んでいる事例を業種や規模ごとに紹介しています。



### いろいろな人の生き方、働き方を見たい

- ☞ **内閣府男女共同参画局「理工チャレンジ ～女子高校生・女子学生の理工系分野への選択～」**  
**先輩からのメッセージ** <http://www.gender.go.jp/c-challenge/senpai/index.html>  
理工系分野で活躍する先輩から、これから理工系分野を目指す女子高校生に向けたメッセージが掲載されています。
- ☞ **(独) 科学技術振興機構 ロールモデル集「理系女性のきらめく未来」**  
<http://www.jst.go.jp/gender/rolemodel.html>  
理系女性研究者の仕事内容、仕事と生活バランスを紹介したロールモデル集です。
- ☞ **(独) 科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」**  
<http://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/index.html>  
各機関が開催する様々なイベントを紹介しています。興味がある分野、目指す分野のイベントにぜひ参加してみてください。
- ☞ **厚生労働省「イクメンプロジェクト」公式サイト** <http://ikumen-project.jp/index.html>  
育休・育児を経験した男性の体験談が掲載されています。
- ☞ **内閣府男女共同参画局「カエル! ジャパン」** [http://www.cao.go.jp/wlb/change\\_jpn/](http://www.cao.go.jp/wlb/change_jpn/)  
ワーク・ライフ・バランスを実現するための企業や国・地方公共団体などの取組が紹介されています。



### キャリア教育について知りたい

- ☞ **文部科学省「キャリア教育」のページ** [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/)  
キャリア教育に関する資料やデータなどの最新情報が掲載されています。



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課

>>> [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/kyoudou/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kyoudou/index.htm)

※本ブックレットの内容は、2014年12月31日時点のものです。

編集・製作：株式会社学研教育出版